

野田村二十一人討死

証如上人御消息披露法要

講師 小林顕英師

2021.5.8(土)

講題 ともに



まずはコミュニティの碑を掃除してお花を供えます。
コミュニティのお世話をする地域の方がいつも綺麗にし
て下さっているので綺麗でした。有り難いです。

法要が始まる前に、コミュニ
ティの碑の前で総代さんと一緒
にお勤めをしました。



コミュニティから戻ったら、次は證如上
人の御消息に間違いがないかの確認を総
代さんと院主、若院で行います。

去年は寺族でのお勤めのみで、この紹
介の御消息の確認も披露も出来ません
でした。今年は今まで以上にとても感慨深い
ものがありました。



若院の喚鐘で法要が始まります。
皆さんで『仏説阿弥陀経』のお勤
めをしました。

證如上人の御消息と縁
起の古文書を総代さんが
高座に運びます。



若院初登壇。御消息披露は歴代院主の勤めですが、この度は若院が行いまし
た。初めてなのでたどたどしさは否めませんでした。皆さん温かく見守って下さ
り、こうしてお育ていただくのだと感じたことです。

そしていつも難なく勤めている院主さんの凄さを実感したこの度のご縁でもあり
ました。



縁起、證如上人の御消息披露
の後には、院主さんが本願寺より
昭和33年にいただいた『顕彰の
辞』を代読。



人間は皆自分が1番だが、如来様はあなたが1番で、こちらを向いていなくても絶対に救うと私を願って下さいます。お念仏は唱えるというより聞かせていただくもの。私の口から出るお念仏は、雨だれの跳ねに例えられます。跳ねは雨だれが落ちてきて地面に当たるその力で跳ね上がります。お念仏も如来様のはたらきがあるからこそ、私の口をついて出るので。

「私が」ばかりではなく、いつでも「ともに」とはたらきかけて下さるお念仏を聞かせていただきたいですね、と御消息披露のご縁にお取り継ぎして下さいました。



緊急事態宣言の最中ではありましたが、おみがきして下さい、法要が行えるようにご尽力いただき、お参り下さる方があり、たくさんの「おかげさま」によりこの度の法要が勤修出来ました。野田村の当時の方々が命をかけて守り通した法灯です。500年余続いた法要をこの度、また改めて大切なご縁であると気づかせていただきました。皆様有り難うございました。